

令和5年度（2023年度）学校評価報告書

園名	宝塚市立 西谷認定こども 園
----	----------------

1 学校教育目標

「心をつなぎ たくましく生きる子どもの育成」 ・ 自分のことは自分でしようとする子ども ・ 友達といっぱい遊ぶ子ども	— 認めあい 育ちあい 学びあう — ・ 感じたことを豊かに表現できる子ども ・ ふるさと「西谷」を愛し、思いやりの心をもった子ども
--	--

2 重点目標

○ 一人一人のよさが輝く楽しいこども園づくり ○ 家庭、地域と共に育ち合う園づくり	○地域の自然、人とのかかわりを通した開かれた園づくり ○研究・研修活動の充実による保育者の資質向
--	---

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
園運営	開かれた園づくり	A	○全職員で役割分担しそれぞれの視点をいかしながら、園の方針や西谷ならではの活動についてHPで継続的に発信することができた。また、クラスの実態に合わせたドキュメンテーションを作成し、タイムリーに子どもの育ちを保護者に発信するように努めた。 ○積極的に地域に出掛けたり、行事に参加したりして、地域の方との交流に取り組んだ。また、保護者サークルを初め、地域の方にお越しいただき、楽器演奏やマジック披露等、園児が直接体験できるような機会を設け、その経験を保育にいかせるように工夫した。
	危機管理体制の整備	A	○コロナ感染症が5類に移行したが、その他の感染症のことも念頭に継続して換気や消毒に努めた。 ○毎月定期的に様々な状況を想定した避難訓練を実施した。実施後は振り返りを行い、次の訓練につなげるように努めた。職員の危機管理への意識を高めることができた。
	子育て支援の推進	B	○園庭開放等を利用した未就園児親子が在園児と交流できるような機会や園行事へ参加できるように誘い掛けた。その中で子育ての相談等を受けるようにした。また、乳児クラスの保護者についても園やPTA行事への参加を誘い掛け、保護者同士のつながりがもてるようにした。地域に未就園児がおらず未就園児教室としては実施ができなかった。参加者を増やすよう工夫すると共に、すでに入園している保護者同士がつながりを持ち、子育てに対する相談や成長を喜び合えるような場を提供できるようにしていく。

4 評価項目ごとの学校関係者評価

○HPの更新やドキュメンテーションの配信等で、子どもたちの様子を知ることができている。また、毎月、自治会を通し各家庭に配布される園だより等で、園の方針や保育内容について発信することもできている。 ○積極的に地域の方との交流の機会がもてたことはよかった。子どもたちの興味・関心が広がるよい刺激となっていると感じる。働いている保護者が増え、行事への参加が難しくなっていることを踏まえ、今後も様々な人とのかかわりを経験できるように地域との交流を大切にしていきたい。
○園内で感染症が流行すること等なく、安全に問題なく過ごせていると感じる。 ○地震が起きた際に園庭にいた子どもたちが速やかに避難している姿を見かけた。また訓練について子どもたちに確認したところとても理解しており、日々の取り組みが身に付いていると感じた。
○本来3歳児の家庭から参加する園行事やPTA活動に乳児クラスの家庭にも参加を呼び掛け、保護者同士の交流が広がったことは評価できる。 西谷地域の子どもたちの多くが既にこども園に入園しており未就園の子どもや保護者同士のかわりには難しい状況である。しかしながら、こども園のよさが公立という枠を超えて多くの方に広がっていくような取り組みを期待している。

	教職員の指導力向上	○深い幼児理解 ○乳児期から幼児期にかけての発達理解	B	○各職員が園内研究会をはじめ園外の研修会に参加したり、ドキュメンテーション等を利用し、職員同士でカンファレンスを行い、日々の保育を振り返ったりしながら、園児の発達段階の理解や一人一人の内面理解に努めた。 ○今年度も市の乳児研修や園内研修会の公開保育の機会を通し、乳児の発達や環境構成の工夫について学んだ。 ○2～3歳への移行期の保育については、互いの保育の刺激となるように、職員間でコミュニケーションをとりながら定期的に合同保育を行うことができた。	○ドキュメンテーションの内容や担任の先生と個々に話す機会を通し、一人一人の子どもの思いに寄り添い、育ちに応じて保育内容を工夫しながら指導されていることが伝わってきた。今後も、研修を重ね、一人一人の育ちや学びに応じた丁寧なかかわりを続けていってほしい。
教育課程	幼児期にふさわしい生活の展開	○子どもが主体的に遊びに取り組み、気付きや発見が得られる保育内容の工夫 ○子どもの主体的な遊びや生活につながるような様々な体験の工夫	B	○子どもたちの実態から、研究テーマを「夢中になって遊ぶ」「遊びこむ」とし、全職員で共通理解をして保育に取り組んだ。幼児では、個々の興味や関心を引き出す環境の工夫に努めた。また、遊びの振り返りの充実と環境としての保育者の役割についても意識して取り組んだ。乳児クラスや保育所部についても、異年齢での保育を意識した環境構成の見直しを行った。 ○園児が心を揺さぶられ感性が育つような直接体験の機会を大切にしてきた。特に西谷地域ならではの自然との触れ合いについては乳児・幼児を問わず、全クラスで意識して取り組んだ。	○今年度取り組まれた研究テーマは、子どもたちの成長にとって大変大切なことだと考える。生活発表会での子どもたちの姿から、その成長を感じることができた。一方で、子どもたちの育ちのために先生方が行っている保育の工夫や指導等については、十分には伝わっていない所もあるのではないかな。より具体的に分かりやすく伝える方法を工夫してほしい。 ○今後も子どもたちの主体性や感性が育まれるように、これまで以上に西谷地域ならではの環境をいかした保育を期待している。
	基本的な生活習慣の育成	○個々の発達に応じた、園生活全体を通した基本的な生活習慣の確立	A	○自分のできることは自分で進めようという気持ちや自分できたという喜びが味わえるように、年齢、個々の発達を捉え、園児一人一人に丁寧に接しながら進めていくことができた。	○少人数である利点をいかし、一人一人の発達に応じて丁寧に指導されており、自分のことは自分でするという習慣が身に付いてきている。この習慣は小学校以降の生活でも大切だと考える。引き続き取り組んでほしい。
	校種間の連携	○園・小・中連携の意義を意識した交流の実施及び職員間の連携	A	○昨年度に比べ、交流の機会を継続的にもつことができ、事前、事後の話し合い等の機会をもつこともでき連携が図れた。特に小学校との交流では、ドキュメンテーション等も利用し、幼児の遊びやその中での学びについて知らせることができた。今後も交流の機会をもちながら、接続期のカリキュラム作成に取り組んでいきたい。	○今年度も、積極的に小中学校との交流に取り組めたことはよかった。3校園で交流・連携を進めていける園は市内でも希少で、西谷の強みだと思う。今後も互いに互恵性のある交流を進めていってほしい。また、市街地の園や施設との連携についても検討を進めてみてほしい。

課題教育	人権教育	○子どもの年齢に応じたふさわしい人権意識の育成	A	○白書活動を通し、様々な立場の職員が子どもの姿の捉えや援助、保護者支援について意見を出し合い互いの人権意識を高めることができた。 ○西谷の自然や動植物との触れ合いを意識的に設けた。また、自分の思いを自分の言葉で話す機会を大切にした。	○子ども一人一人を大切に向き合う姿勢を感じることができた。 ○命の大切さを感じることができる動植物と触れ合いや自分の思いを自分の言葉で話す経験は、子どもたちにとって重要であると考ええる。引き続き取り組んでほしい。
	特別支援教育	○個々の課題の把握と個別指導計画に基づいた指導内容を共通理解した指導の工夫	A	○個別の指導計画を作成し、園児の課題や支援の在り方について共通理解しながら取り組んだ。学期ごとに見直しを行うと共に、施設訪問指導での学びを取り入れ、幼稚園部と保育所部で共有しながら支援できるように努めた。より具体的な支援について考えていきたい。	○子どもたち一人一人の個性、成長を大切にしながら丁寧なかかわりが行われている。一人一人の課題が違うため、今後もその子に応じた支援により近づけるように、特別支援教育に対する知識、理解を深める研修を続けてほしい。
独自項目	保育者同士の連携・協力体制の確立	○ 異年齢保育の充実に向けた他学年保育者との連携 ○ 幼稚園職員と保育所職員との連携	A	○幼稚園部の秋から生活発表会での遊びでは、3学年の担任がそれぞれの発達段階を意識し、どの学級の園児の育ちにも目を向けながら、共に話し合い保育を進めることができた。 ○乳児クラスでは、日課が支障なく進むように常に保育士同士での連携が行われ、異年齢での保育も行われている。 ○幼稚園職員と保育所職員との連携は、時間をとることが難しいなか、園児の午睡時や紙面を活用し可能な限り連携に努めている。	○行事等の際、各学年の担任同士、また幼保の職員がコミュニケーションや連携をとりながら協力し合っていて取り組んでいると感じる。 ○保育所部に関しては、幼稚園部のように参観や行事等を通しての取り組みや保育の工夫についての発信が難しいと思うが、家庭との連携、啓発という意味も含め、保育所部単独での懇談会の開催を検討してみてもどうか。

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

○行事ごとに保護者へのアンケートを実施し意見集約を行い、いただいた感想や意見に対して丁寧に園の見解を載せている。
また、幼稚園評議員や来賓、交流した小中学校教諭等、外部の意見も参考にしており適正に実施されている。

6 総合的な学校関係者評価

○少人数であることをいかし、子どもたち一人一人の育ちや発達に応じて愛情たっぷり丁寧に保育・教育が展開されていることが伝わり大変好感がもてる。
○今年度はコロナ感染症が5類に移行したことに伴い、特に昨年度、課題としてあげていた人とのかかわりの面において、子どもたちにとって刺激となるような行事や地域との交流が積極的に行われており、よい学びの機会となったと感じる。
○子どもの少ない西谷地域の中で、子どもたちが社会生活を唯一、あるいはより体験できる場所が3年保育を行っていることも園だと考える。今年度、異年齢のかかわりの中での子どもたちの学びを3学年合同の生活発表会として発表したことは、西谷ならではの新たな取り組みとして評価できる。今後も、園小中学校が中心となり、地域と積極的にかかわりながら子どもたち一人一人を育てていく役割を果たしてほしい。